榛名神社社報

発行日　昭和六一年七月一日
発行所　沼田市榛名町二、八五一
　電話〇二七八　(22)二六五五
　　　　　　　　(23)五一二二
発行人　金子包幸

榛名神社由緒

一、鎮座地　沼田市榛名町二、八五一番地

一、御祭神
- 埴山姫命（はにやまひめのみこと）（五穀豊穣の神）
- 倭建命（やまとたけるのみこと）（土地守護の神）
- 菅原道真命（すがわらのみちざねのみこと）（学芸指導の神）
- 建御名方命（たけみなかたのみこと）（安産加護の神）

一、摂社神　大国主神（おおくにぬしのかみ）（良縁結びの神）

一、由緒　上野国神名帳利根郡の部に、倭建命は従一位宝高明神として滝棚の栗林に鎮坐せられ、菅原道真命は従二位碓根明神として根岸（現在地）に鎮坐せられた。

処が享禄三年（一五三〇）沼田万亀斎顕泰が幕岩城から倉内城に移る時にそこに鎮坐しあった宝高明神を城の西下の碓根明神の社に遷し、同時に顕泰の妻の産土神である榛名大権現（埴山姫命）を勧請して三神を一社に祀って榛名社と称した。明治四十一年に至り社の西に鎮坐されていた諏訪神社（建御名方命）を合祀したので御祭神は三柱一座と称せられている。

当社は沼田氏・真田氏・本多氏・黒田氏そして土岐氏と歴代城主の崇敬を受け、本殿は元和元年（一六一五）真田伊豆守信幸公の奉建に係り、参道入口に建つ、大鳥居は本多伯耆守正永公の奉納である。

明治六年郷社に列し、昭和三年県社に昇格したのであるが、昭和二十一年宗教法人となり利根沼田の総氏神と称えられている。境内には荘重な神苑と広大な駐車場とがあり、更に豪華な結婚披露宴会場があって会館巴と呼ばれている。

榛名神社は上越新幹線上毛高原駅から遥かに望まれ、関越高速月夜野インターからも眺められてお参りする人々に心の安らぎと身健やかを授け給うのである。

神拝詞

神社拝詞

掛けまくも畏き　榛名神社の大前に恐み恐みも白さく大神の広き厚きみ恵を辱み奉り　高き尊きみ教のまにまに　天皇を仰ぎ奉り　直き正しき真心もちて　誠の道に違ふことなく　負ひ持つ業に励ましめ給ひ　家門高く身健やかに世のため人のために盡さしめ給へと　恐み恐みも白す

右は神社参拝の際の詞であって簡潔ではあるが、神道の心を表現している。神道は皇室あっての神道であり、皇室は神道によって安泰さを加えている。

神棚拝詞

この神床に座す　掛けまくも畏き　天照大御神産土大神等の大前に恐み恐みも白さく　大神等の広き厚きみ恵を辱み奉り　高き尊きみ教のまにまに　直き正しきま心もちて　誠の道に違ふことなく　負ひ持つ業に励ましめ給ひ　家門高く　身健やかに　世のため人のために盡さしめ給へと　恐み恐みも白す

右は毎朝毎晩家の神棚の前で申しあげる詞であります。遠い祖先から言い継ぎ伝え来った伝統、こゝに日本の心が宿っている。家門繁昌・社会奉仕がその核なのである。

祖霊拝詞

代々のみ祖等のみ前に慎み敬ひも白さく　広き厚きみ恵を辱み奉り　高き尊きみ訓のまにまに　身を慎み業に励み　親族家族諸々心を合せ　睦び和みて　敬ひ仕へ奉る状を　愛ぐしと見そなはしまして　子孫の八十続に至るまで　家門高く立ち栄えしめ給へと　慎み敬ひも白す

右はみ霊舎の前で毎朝毎晩拝がむ詞であって、先祖に仕える心を教えている。子孫繁栄を祈ることが今の私達の義務である。

右の文例は相当永いために覚えにくいかも知れない。そこで私が小学一年生の時、父から指示された簡単な拝詞を記して見たい、御参考になれば有難い次第である。

神棚の前

氏大神を始め諸々の大神等　安平を守り給へと白す

み霊舎の前

世々のみ祖のみ霊等　安平を恵み給へと白す

社頭講話

神様はそばにいる

人間はすべて神様と一緒に暮しています。自分一人で生きているんだと云う人はありません。事実、神様は何時でも何処でも私達の傍にいらっしゃいます。

神様がそばにいるからこそ、どんなに悲しくとも苦しくとも心強く生きて行けるのです。世の中には自分だけが不幸だと云って悲しんでる人が多いけれども神様は何時までも放っておきはしません。必ず公平にお導き下さいます。何時でも温かくお守り下され、何処でも明るくお訓し下さいます。

皆さん、神様と一緒ですからどうぞ明るく頑張って下さい。

氏神さま

昔は同族の先祖を氏神と云い、同族の者を氏子と呼んだ。氏子達は氏神の前で行事や事業を定め（まつり）それを実施実行する習わし（まつりごと）であった。これが祭政一致と言われる日本の伝統である。

時代がたつにつれてその同一氏族の中へ他の氏族の人が来住すると何時しか氏神さまは「鎮守さま」と呼ばれるようになり、氏子の呼び方は変らずに「氏子」と呼び続けられた。

氏神さまは最も身近かな神であり、私達氏子の「うぶすな―生れてから死ぬまで」の守り神、だからこそ氏子が何をしようと何処へ行こうと何時も何時も見守って下さるのです。

お宮参り

お宮参りは昔からの尊い習わしです。お嫁に行った娘さんが懐しい親元へお客に来るように、氏子が氏神さまの処へ元気な顔を見せる、それがお宮参りです。氏神さまは首を長くして氏子たちのお参りを待っていらっしゃるんです。だから氏子のお参りがあるととてもお喜びになって沢山の「ごほうび」を下さいます。

その「ごほうび」とは一に身も心も清らかにして下さる。二にお家の人を幸福にして下さる。そして三は世の中を明るく平和にして下さいます。

昔から苦しい時の神だのみと言います。苦しみが大きければ大きい程氏神さまは御熱心に聞いて叶えて下さるんです。遠慮はいりません、氏神さまは親神さまなのです。

（宮司　金子包幸）

役員名簿

名誉宮司	金子 安平
宮司	金子 包幸
（祢宜）	金子 浩隆
権祢宜	金子由紀子
東倉内町参与	阿形 登氏
西倉内町参与	高橋晴三郎
柳町参与	斎藤 圭司
高橋場町参与	田中 孝吉
材木町参与	間宮 栄一
桜町参与	霜垣 政夫
上原町参与	星野 強次
東原新町参与	永井 喜壱
西原新町参与	佐々木弘男
榛名町参与	大平 豊茂
清水町参与	赤井 喜助
薄根町参与	桑原 幸一
東倉内町氏子総代	花山 真吉
〃	村松 博文
〃	角屋 亮平
西倉内町氏子総代	中島 茂義
〃	生方 福治
〃	宮下 信行
柳町氏子総代	林 良吉
〃	萩原 郡二
高橋場町氏子総代	富澤 澤司
〃	木榑平八郎
〃	山本民之助
材木町氏子総代	関口長太郎
〃	金子 充亨
〃	桑原 利夫
桜町氏子総代	霜垣 永松
〃	松井菊之助
〃	浅沼 馨
上原町氏子総代	大竹 利治
〃	田村卯四秋
〃	鷲頭 長雄
東原新町氏子総代	大島 潔
〃	片桐 鉄男
〃	冨沢 一郎
西原新町氏子総代	吉野 繁
〃	小林 武次
〃	小林 一郎
榛名町氏子総代	栗原千代吉
〃	松井 延忠
〃	金子甚太郎
清水町氏子総代	及川 次郎
〃	半藤 芳平
〃	高居 厳夫
薄根町氏子総代	今井高次郎
〃	尾身 武雄
〃	入沢繁次郎
事務局専務	金子かよ子
〃主事	新木 茂

花 フラワーショップ
みずいし
キネマ通り本店 ☎22－3615
マルグン支店 ☎24－3272

赤飯・祝餅・和菓子
松延堂製菓
沼田市榛名町
☎23－1717

酒・タバコ・食料品
㈲飯田商店
沼田市鍛治町955
TEL 22－4710

仕出し料理
味の魚慶
沼田市榛名町
☎23－0632

御菓子司
まめや
沼田市商和通り
電話 22－2565番